

を訴え近医を受診した。CTでlt. CP angleにmass lesionを認め、開頭部分摘出術を施行された。2ヶ月後、精査と治療を目的に当科に入院した。Gd MRIでconfluenceからlt. transverse sinus, sigmoid sinusに沿って増強されるmass lesionがjugular veinまで伸展していた。Feeding arteryをembolizationした後、頭蓋内の腫瘍摘出を行った。1年後にCP angleのmassが再び増大したため、これを摘出しconfluence近傍のmassにgamma knifeで放射線治療を行った。現在左の聴力が軽度低下しているが社会生活が可能な状態である。結論：Papillary meningiomaは浸潤性で悪性腫瘍の範疇に入る。後頭蓋窩の静脈洞からjugular vein内に充満し、顎下部まで伸展していた本症例を呈示し、治療法について考察する。

#### B-9) mesenchymal chondrosarcoma の一例

太田 浩彰・牛渡 一盛 (小山市民病院)  
脳神経外科  
小川 彰 (岩手医科大学)  
脳神経外科

今回我々は頭蓋内発生は稀とされているmesenchymal chondrosarcomaと診断された一例を経験したので報告する。症例は31歳男性。平成9年2月より頭重感出現し当科受診。CTにてfalxの左右の石灰化と脳腫瘍を認め入院となる。神経学的には軽度うっ血乳頭のみであった。MRIにて腫瘍は硬膜に広く付着しGd-DTPAにより強く増強された。脳血管撮影にて腫瘍は左前大脳動脈の分枝、左中硬膜動脈、左浅側頭動脈の前頭頂頂枝よりfeedingされ、前大脳鎌動脈の拡張も見られた。髄膜腫の診断で両側前頭開頭にて手術を行ったが出血が多く部分摘出にとどまった。組織では核は大小不同の類円形で分裂像はなく多数の血管を伴い増殖し、一部軟骨化も見られた。免疫組織的にはVimentin陽性の部分がありEMAには陰性であった。以上よりmesenchymal chondrosarcomaと診断されたが、髄膜腫やhemangiopericytomaとの鑑別が重要とされた。

#### B-10) Painful ophthalmoplegiaを呈した cavernous sinus内 hemangiopericytomaの1例

木村 憲仁・佐々木雄彦  
安斉 公雄・福岡 誠二 (中村記念病院)  
岡 亨治・大里 俊明 (脳神経外科)  
及川 光照・武田利兵衛 (財)北海道脳神  
堀田 隆史・中村 博彦 (経疾患研究所)

Hemangiopericytomaは、全頭蓋内腫瘍の1%未満の稀な腫瘍であり、cavernous sinus内の発生は極めて稀といえる。我々は、painful ophthalmoplegiaを主症状とするcavernous sinus内 hemangiopericytomaを経験したので、その臨床経過並びに放射線学的所見について報告する。症例：48歳女性、既往として1997年8月に下腿骨腫瘍の摘出術を受けている。同年9月より頭痛を自覚。12月上旬より左眼瞼下垂が進行し12月17日当院入院。入院後、動眼、滑車、外転神経の麻痺が進行し、左眼窩後部の頑性疼痛を伴った。頭蓋単純写にて、蝶形骨洞部の骨の硬化と左頭頂骨の骨透過像を認めた。MRIでは左cavernous sinus内にT1WI, T2WIともにisointensityのmassを認め、同部はGd-DTPAにて軽度の均一な造影効果を認めた。脳血管造影では、cavernous sinus内の内頸動脈がわずかに狭窄し、inferolateral trunkから栄養される腫瘍陰影が、cavernous sinusとsphenoid sinusの骨の部分に認められた。1998年1月9日左頭頂骨のbiopsyに引き続き、1月13日cavernous sinus内の腫瘍の摘出を行った。病理診断は頭頂骨部、cavernous sinus内腫瘍ともに、hemangiopericytomaであった。

#### B-11) 硬膜下膿瘍の4例

野下 展生・天笠 雅春 (山形市立病院)  
齋藤 桂一・佐藤 壮 (済生館脳神経外科)  
成田 徳雄 (米沢市立病院)  
脳神経外科

【目的】硬膜下膿瘍は全頭蓋内感染症の約10~20%、脳膿瘍の1/5程度と比較的稀な疾患である。我々は痙攣発作を伴った10歳の硬膜下膿瘍の1例を経験したので、過去の自験例3例と併せて報告する。

【症例】症例は10歳、女性。頭痛、熱発で発症し、痙攣発作を伴った硬膜下膿瘍である。原因は前頭洞炎に由来するもので、当初は抗生剤による保存的治療を行っていたが改善は傾向なく、2期的に開頭排膿及びドレナージ術を施行し良好な予後を得た。他の3例は、2例が副鼻